



# 今さらきけないQC検定とは ～主催者／研修事務局／受検者3つの視点から

## QC検定をご紹介～

日科技連 品質経営推進センター 営業・企画グループ 鈴木 健二

### はじめに ～QC検定とは～

品質管理検定（以下、QC検定）とは、品質管理・改善を実施するための能力と、その能力を発揮するために必要な知識を、4段階のレベルに分けて筆記試験で客観的に評価し、品質管理の知識レベルの認定を行うものです。各級で想定される知識レベルならびに対象となる人材像は下表のとおりです。

2005年に行われた第1回試験から2021年の第32回試

験まで、受験者数は累計133万6,143名に及び、多くの企業で活用されています（日本規格協会のホームページには、QC検定を活用している企業22社の事例が掲載されています）。

今回は、QC検定について主催団体／研修事務局／受検者という3つの異なる視点からご紹介したいと思います。QC検定の受検を考えている方はもちろん、組織としての活用を検討されている方にもご参考となれば幸いです。

各級の知識レベル		対象となる人材像
1級	品質管理に関する高い専門性や指導力を求められるレベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>●部門横断の品質問題解決をリードできるスタッフ</li> <li>●品質問題解決の指導的立場の品質技術者</li> </ul>
2級	統計的手法を活用し、問題解決や改善活動をリーダー的役割で実施するレベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自部門の品質問題解決をリードできるスタッフ</li> <li>●品質にかかわる部署の管理職・スタッフ</li> </ul>
3級	品質管理の基本域な知識を理解し、QC七つ道具などを用いて職場の問題を解決するレベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>●業種・業態にかかわらず自分たちの職場の問題解決を行う方</li> <li>●品質管理を学んでいる大学生・高専生・高校生</li> </ul>
4級	社会人としての基礎的素養や品質管理に関する用語の知識を有するレベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>●初めて品質管理を学ぶ方、大学生・高専生・高校生</li> <li>●新入社員、派遣社員の方などの社員外従業員</li> </ul>

### 1. 主催者から見るQC検定

#### ～企業におけるQC検定受検のメリット～

QC検定は、(一社)日本品質管理学会が認定を行い、(一財)日本規格協会と(一財)日本科学技術連盟が主催団体として運営しています（この他、16の協賛団体があります）。日本規格協会のホームページには、企業としてQC検定に取り組んでいる22社の事例が掲載されています。主催者として企業におけるQC検定受検のメリットは4つあると考えています。

#### (1) QCレベルの底上げによる組織の活性化

組織全体で品質管理に対する意識を高めることで組織の活性化につながります。また、社内の品質管理・問題解決力の向上および製品品質の向上を図ることができます。

#### (2) 社内教育の計画立案が容易になります

QC検定の取得状況によって各個人の品質管理のレ

ベルを把握し、教育計画に活用することができます。また、社内教育の負担の軽減を図ることができます。

#### (3) 人事計画性が明確に

QC検定を受検することで部署ごとに品質管理のレベルを把握し、人事計画に活用することができます。

#### (4) 採用時の能力評価基準になります

社員、派遣社員などの採用時の能力評価基準として活用することができます。さらに、QC検定を活用することで、品質管理レベル向上を図ることができます。

これら4つのメリットから、個人レベルでの取り組みでなく、QC検定制度を組織として活用することを主催者として強くお勧めいたします。

た、社内教育の負担の軽減を図ることができます。

## 2. 研修事務局から見るQC検定 ～QC検定対応コース受講のお勧め

日科技連ではSQC（統計的品質管理）関連の研修を数多く開催しており、QC検定1級から3級レベルに対応する研修や通信教育、eラーニングも開催しています。私は1級ならびに2級レベル対応コースの事務局を担当した経験から、QC検定対応コースを受講するメリットが3つあると考えています。

- (1) 品質管理で必要とされる知識を幅広く修得できる  
QC検定では品質管理に必要とされる知識について幅広く出題されます。QC検定対応コースのカリキュラムは、QC検定で出題される内容のほとんどをカバーしているため、受講することで品質管理で必要とされる知識を幅広く修得することができます。
- (2) 研修で得た知識のレベル感を把握できる  
QC検定対応コースの受講により、研修で得た知識のレベル感を把握することができます。QC検定として一般的に認知されている知識レベルを有しているの目安になるからです。研修効果の把握にお悩みの教育担当者にとってもメリットといえるのではないのでしょうか。
- (3) 研修内容を復習するモチベーションの醸成  
QC検定を受検するつもりがなかった方が、QC検定対応コースの受講をきっかけとしてQC検定受検に挑戦されるケースがあります。研修で学んだ品質管理の知識も、実務で活用しなければすぐに忘れてしまいますので、研修内容を復習するきっかけとしての好例といえます。

## 3. 受検者から見るQCC検定 ～QC検定2級合格体験記～

私が新入社員の頃、職員教育の一環としてQC検定3級レベル対応の通信教育を受講しました。幅広く品質管理の知識を修得できたことはたいへん有意義であったと感じています。

その後2006年にステップアップとしてQC検定2級に挑戦し、何とか合格することができました。独学であったため検定・推定を理解するのがとてもむずかしかったです。これから受験を考えている方には、先述したQC検定対応コースの受講を強くお勧めいたします。また、良質な問題集が数多く市販されておりますので、効率的に試験対策を行ううえで問題集の活用もお勧めです。

QC検定のレベル表（出題内容が記載された一覧表）が2008年と2015年に改定され、新たに追加された出題内容があります。私が受検した2006年よりも難解になった印象を受けており、今後1級に挑戦するモチベーションを何とか上げたいと考えている次第です。

### おわりに

世の中にはさまざまな検定試験があります。私がつい最近知ったものでは、神社検定やお城検定もあるそうです。個人で考える資格取得のメリットはさまざまかと思いますが、QC検定受検をきっかけとして、今後も多くの皆様に品質管理に親しんでいただければうれしい限りです。

(以上)

